

経営比較分析表（令和3年度決算）

岩手県奥州市 奥州市総合水沢病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透訓ガ	救感輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
113,162	16,726	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
145	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	149
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
82	-	82

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

胆江二次医療圏の二次救急医療施設として救急医療を担い、急性期医療から回復期医療、在宅医療を提供しています。
新型コロナウイルス感染症に対しては、感染症指定医療機関として発熱外来の設置や検査体制の充実を図っています。中でも40%を超える患者の入院受入を行い、医療圏内において中心的な役割を担っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染症に対する重点医療機関指定を受け、空床補償補助金等の交付を受けたことにより大幅に収益が改善し経収支黒字となりました。しかし、医療収支比率は発熱外来患者の増加等により前年度より若干改善したものの、常勤医不足により令和元年度以降70%を下回る比率で推移しています。また、入院患者1人1日当たり収益は前年度より減少し、類似病院平均と比較し5,000円以上の乖離がありますが、整形外科常勤医不在の影響が大きいものと分析しています。
職員給与比率は前年度比4.1ポイント改善しましたが、医療収益が伸びず、職員の平均年齢も高いことから90%を超える比率となっています。

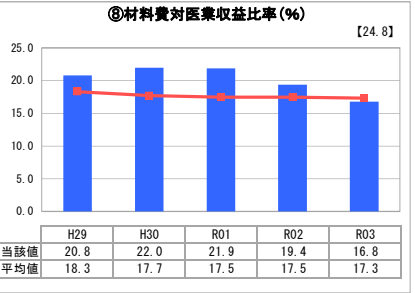
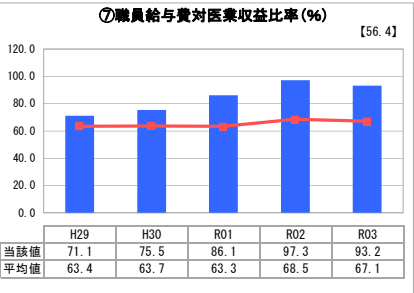
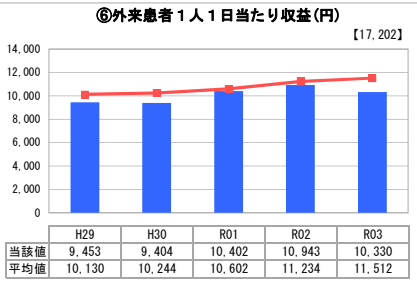
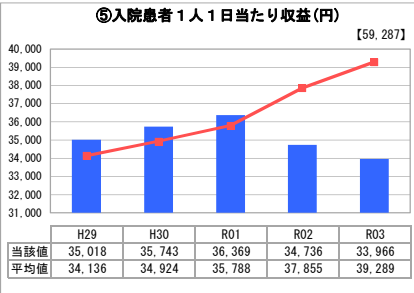
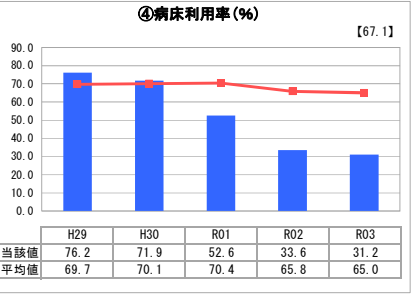
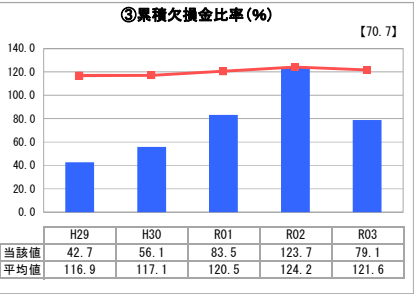
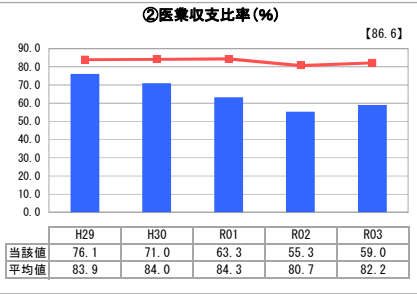
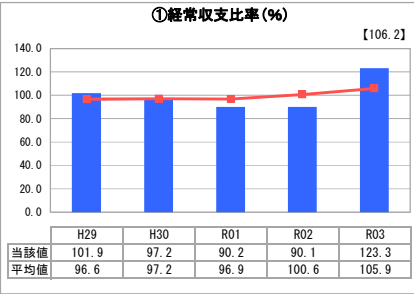
2. 老朽化の状況について

病院本館（昭和58年築）、検査手術棟（昭和43年築）ともに老朽化が著しく維持修繕費が増大している状況です。
老朽化に加え耐震強度の問題もあることから、建替等が必要な状況ですが、当院を含め市立病院全体としてのあるべき姿を提示するため、「地域医療奥州市モデルの実現に向けた市立医療施設のあり方」（令和5年1月～市民説明会開始）の中で、新病院建設を含めた案を提案しています。
医療器械については計画的な更新を行うとともに、他の市立医療機関との相互利用を行うなど効率的な活用を図る必要があります。

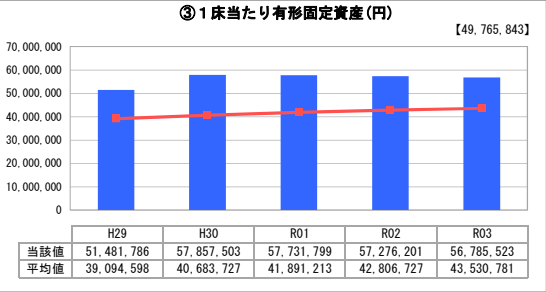
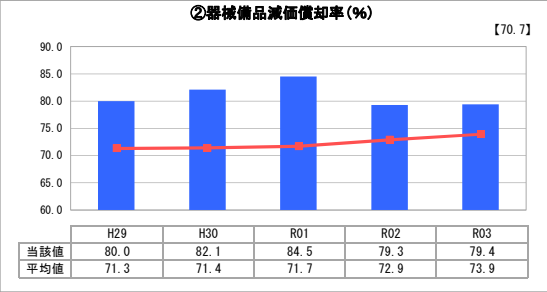
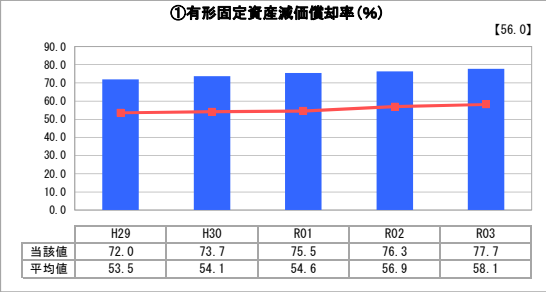
全体総括

平成30年度以降常勤医不足が常態化し、毎年多額の営業損失を計上しており、医師確保が最重要課題となっています。
令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症に対しては少ない医師数ながらも、圏域内で中心的な役割を担い存在感を示してきました。
今後は感染症対応のみならず、複数の診療科を持つ総合病院の強みを生かし、他の市立医療機関と連携した持続可能な医療提供体制を構築する必要があります。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。